



熊本地震における避難所の様子

避難所の運営は、
地域のみんなで

地震や津波、洪水、土砂災害で自宅が流失、損壊してしまふなど自宅で生活できなくなった場合、多くのかたは市が開設する避難所での生活を強いられることになります。

避難所生活で避難者はお客さんではありません。避難者自身も積極的に避難所運営に関わることが重要です。

運営の流れ

避難所開設準備・開設

- ・準備のための開錠
- ・受入準備（安全点検など）
- ・レイアウトづくり
- ・避難者への開設・受付開始（避難者数把握（名簿づくりなど））
- ・居住スペースへの誘導と割り振り

運営体制づくり

- ・運営委員会の設置
- ・会議の開催【代表者会議、班別会議（総務班、情報班、被災者管理班、施設管理班、食料物資班、救護班、衛生班、ボランティア班など）】

避難所運営

- ・行政との連絡体制の確立
- ・在宅避難者への対応
- ・避難行動要支援者への支援
- ・物資確保

避難所の安定化

- ・ルールの確立
- ・生活支援
- ・常用医薬品の確保
- ・居場所づくり
- ・プライバシー確保対策
- ・管理（衛生・食事・健康）の徹底
- ・相談体制の確保
- ・こころのケア（遺族含む）

避難所開設・運営の流れ

台風などのときに一時的に避難所に避難する場合ではなく、一定期間避難所で生活する場合の避難所開設や、運営の流れは表のとおりです。

避難所は在宅避難者の支援も含め、地域コミュニティの場となります。発災直後には、住民自治による迅速な取り組みが重要となることから、避難所は原則として、住民の自主運営とします。しかし、準備をしておかなければスムーズな避難所運営はできません。市では避難所運営マニュアルの作成や避難所運営ゲーム（HUG）のサポートを行っています。また、市や他団体主催の防災訓練・講演会についても随時お知らせします。

避難所運営には常日頃の準備・訓練が大切です

一人一人が備えてこ！
防災力UP！鳥羽

総務課防災危機管理室

☎ 25 1118

vol.50

Vol.43



「自己主張」

みんなで子育て
だっこで
ほっと

子育て支援センター
☎ 25 7225

子どもには、何を言っても「いや」と言う時期がありますが、この「いやいや」が自己主張の始まりです。反抗期と呼ばれる2〜3歳頃が一番顕著に現れます。子育て支援センターでも「何でも『いや』と言って、いうことを聞かないんです！」と困っているパパやママがいらつします。

自己主張とは、幼児期では自分の理解できることや、自分でできることが増え自分が何をしたいのか、どうしたいのかがはっきりしてきて、自分なりの意思を周りの人に表現しようとするものであり、意欲や関心の育ちの表れとも言えますが、対処に手こずるパパ、ママが多いのではないかと思います。

例えば、この時に大人が威圧的に叱り飛ばしたとしたり、子どもは恐怖から自分の思いを出

せない子に育ってしまいます。

しかし、大人は周りの人が困ることや、危険なことは止めなくてはなりません。子どもは、自分の思い通りにいくことばかりではない経験もすることになります。そんな時は大泣きをしたり反抗したりするかもしれませんが、そのやりとりがとても大切です。このプロセスの中で、自分の思いをはっきり認識したり、自分とは違った考えがあることを知ったり、社会のルールやマナーを教わったりしていきます。

自分の思いを受け止めてもらったり、思いが通らず泣いたり、そうした経験を重ねながら、自分の思いを周りの人に伝える力や自分以外の考えの人との折り合いの付け方を学んでいくのです。じつくり関わってあげたいですね。